

2021年03月23日(火)【外為Lab】松田哲
タイトル:【3月末は、日本の期末ですが・・・】

3月末が近づいています。

金融機関を含めて日本企業の多くが決算期末となるため、外国為替取引にも変化が生じます。

儲かるにせよ損をするにせよ、決算数字に大きな変化が生じる事を敬遠するため、日本の企業は、外国為替取引に対して消極的になりがち。

海外にある資金を日本に戻す動き(利益送金、レパトリ)が顕著になり、一般的に「相場が円高方向に傾きやすい地合い」と言われます。

しかし、それは日本だけの特殊事情です。

外国為替市場に大きな影響を与える主要な国々(欧米諸国)の金融機関や企業の決算は、12月がほとんどです。

さらに、今年は、世界中がコロナウイルス問題で、特殊な環境下にあるので、通常の実算期末期とは異なる可能性もあり得る、と考えます。

また、この夏の東京オリンピックでは、海外からの観客の受け入れを断念する、と決まりました。

海外からの観客が来ないことは、この決算期末期には、直接的に影響は無いのですが、この夏に、来日するはずだった観客が日本円を購入しないのですから、先々の外国為替の需給に、大きく影響が出るはずで。

だから、今年の3月末は、普段通りの3月末とは異なるのだろう、と考えています。

会社員であれば決算期末を迎えて忙しい想いをしているかも知れませんが、外国為替取引をすることは、投資家としては世界を相手に取引をしているのですから、日本の期末を過度に意識する必要は無い、と考えます。

今年になって、1月も2月も、難しい相場つきが続いた、と考えます。

だから、3月こそ頑張って好成績が残せるように相場と向き合おう、と考えています。

ただし、引き続き、難しい相場が続いていますから、無理は禁物、と自分に言い聞かせています。

+++++

(2021年03月23日東京時間13:35記述)